

コロンビア経済情勢（1月分）

1月のコロンビア経済概況は以下のとおり。

【ポイント】

- 2020年のコロンビアのGDPを3.5%と予測
- 2019年の税収は前年比9.3%の増加
- 対外債務はGDPの43.2%に到達
- ドゥケ大統領はダボス世界フォーラムに参加
- 全国ストライキによって11月の工業生産は1.5%減少

【本文】

1 主な出来事

<国内情勢>

(1) IMFは、2020年のコロンビアのGDPを3.5%と予測（30日、当地紙報道）

国際通貨基金（IMF）は、2020年の経済成長率予測を発表した。これによると、コロンビアのGDPは、これまでの予測値である3.6%から3.5%に下方修正されたが、依然ラテンアメリカ地域内で最も経済成長が見込まれる国の一つである。また、2021年の成長率は3.8%と予測された。ラテンアメリカ経済に関しては、2019年の成長率は、0.1%となったものの、2019年の予測は、1.6%と維持された。2021年は2.4%と予測されている。この修正は、ラテンアメリカ各国での抗議行動をマイナス要因としたことに加え、世界経済の成長率予測を、2020年で3.3%、2021年で3.4%に下方修正した影響によるものとみられる。

(2) 農業部門における2019年第4四半期の経済成長率は2.5%（30日、当地紙報道）

バレンシア農業・地方開発相は、農業部門における2019年第4四半期の経済成長率は2.5%になる旨発表した。コーヒー、果物、コメ、豚肉・鶏肉等家畜の輸出が好調だったことが、農業部門の好調に反映された。

(3) 2020年は、経済基盤と社会基盤が統合される年となる（2日、当地紙報道）

コロンビア工業連盟（ANDI）は、2019年の経済報告書を発表し、コロンビア経済は、ラテンアメリカ地域とは異なる特性である堅実さと規律という長い伝統の結果として、統合的な回復プロセスにあるという、コロンビア経済成長の巡航速度を強調した。また、工業生産が1.8%増加し、国内市場の売上高は2.9%増加したとした。さらに、この報告書は、国が必要とする財政規律と改革を実施する政治シナリオの構築を行うとともに、2020年を統合的成長の年とし、4%の経済成長を目指すとしている。

(4) 政府は、各業界と協定を締結し、110万人の雇用を創出（28日、当地紙報道）

ラミレス副大統領は、経済成長と企業家による雇用拡大のための戦略をまとめた官民協定である「経済成長と雇用創出のための協定」の第2回署名式において、すでに12社が参加しているこのプロジェクトに、さらに新しく10セクターが参加したことに感謝の意を示した。新しく参加した10セクターは、製薬、アブラヤシ、果実、牛乳、水産、サトウキビ、エネルギー、鉱山、石油・天然ガス、インフラとなる。このプロジェクトによって、2022年までに、110万人の雇用が

創出され、生産額は 570 兆ペソ（約 1,486 億米ドル）増加し、総輸出額、100 億米ドル増加すると見込まれている。

（5）ドゥケ大統領は、2020 年内の年金改革を示唆（25 日、当地紙報道）

ドゥケ大統領は、政府及び労使が合意を形成し、より多くの人々が年金を受け取れるようにするためのメカニズムが必要である旨述べた。現在 2,200 万人の労働者がいるが、年金積立金を支払っているのは、わずか 800 万人であり、65 歳以上の高齢者のうち 4 人に 1 人だけが年金を受給している。これに伴い、2020 年内に現状分析と議論を開始するための文書が提出される可能性を否定できないとしている。

（6）2021 年完成予定の 4G プロジェクトの資金調達が完了（26 日、当地紙報道）

グティエレス（Manuel Felipe Gutierrez）コロンビアインフラ庁（ANI）長官は、現政権の現在及び短期的な目標は、幹線道路、港湾、空港、鉄道の開発である旨述べ、2021 年までの 4G プロジェクトの資金調達が完了することを確認した。さらに、空港に関してはカルタヘナ、ブエナビントウーラ、ネイバで改修が行われるとともに、鉄道に関してはラ・ドラーダ-チリグアナ間で路面の改修が行われる、また、河川交通に関しては、マグダレナ川における官民合同プロジェクトの契約が行われる旨発表した。

（7）トランスミレニオ網は 5 年間で 22.4% 拡張の見込み（23 日、当地紙報道）

ボゴタ市及びその近郊のトランスミレニオ網をこれ以上拡張するべきではなく、メトロなどの他の交通システムを導入するべきだという意見があるものの、23 日現在 2 件の大規模なトランスミレニオ拡張プロジェクトが進行中であり、68 号線の開通が予定されている。現在のところ、トランスミレニオ網は 114.5km あるが、2025 年までに 3 つのプロジェクトが実施され、25.67km 延長し、22.4% 拡張する。3 つのプロジェクトは、68 号線（16.97km）、すでに契約されているソアチャ市線のフェーズ 2 及びフェーズ 3、カラカス通りからウスメまでの延長（4.2km）となっている。

（8）2 月に UBER の配車サービスが停止（11 日、当地紙報道）

Uber 社は、12 月 20 日に行われた商工監督局の決定に従い、2 月 1 日からコロンビアでの配車サービスを停止する旨発表した。商工監督局は、Uber 社のサービスが、不正競争行為を行い、個別の公共交通サービスから、顧客を奪ったとしている。同社は、同局が当該サービスをコロンビアの法制度に対し違法とするために、適切なプロセスを経ず、恣意的な裁決を行い、サービス利用者に不利益を与えたとしている。

（9）エネルギー需要は、過去 4 年連続で増加（21 日、当地紙報道）

2019 年のエネルギー需要は、前年比で 4.02 % 増加した。2015 年に 4.18% 増加して以来 4 年連続の成長となった。これは、生産部門の好調を示す指標となる。2019 年 12 月のエネルギー需要は前年同月比 5.38% 増となった。

（10）全国ストライキは、11 月の工業生産に影響（18 日、当地紙報道）

国家統計庁は、11 月の製造業の生産が前年同月と比較し、1.5% 減少し、2019 年 1 月から 11 月の生産は、前年同期と比較し、1.3% 増加したと報告した。これは、11 月の後半に行われた全国ストライキの影響と見られる。他方、年間を通してみると製造業の 39 の分野のうち、23 の分野

で成長がみられた。また、2019年1月から11月の自動車の車体製造は、前年同期と比べて、54.1%成長し、最も成長した分野となった。

(11) 2019年のコーヒー生産量は過去27年間で最高(15日、当地紙報道)

コロンビアコーヒー生産者連盟によると、2019年のコーヒー生産量は、1,480万袋となり、前年と比較して9%増加して過去27年間で最高の生産量となった。また、国内に約54万人いるコーヒー生産者に、史上2番目に高い、約7.2兆ペソ(約19億米ドル)の利益をもたらした。これは、ここ3ヶ月間の好調なコーヒーの国際価格及び、1ドル3,500ペソを超えるペソ安の影響である。2019年のコーヒーの輸出は、前年比7%増加し、1,370万袋に達した。

(12) 2019年の税収は、157兆8,700億ペソに達した(14日、当地紙報道)

国税・関税庁によると、2019年の徴税額は、157兆8,700億ペソ(約420億米ドル)となった。前年と比較して9.3%の増加し、当年の目標額の100.6%となった。国内の経済活動に関連する税金は、2018年の121兆3,500億ペソから、8.4%増加し、131兆5,600億ペソとなった。この内、一番多かったのは、所得税で4.9%増加した52兆7,400億ペソであり、二番目に多かったのは、付加価値税で、7.6%増加して、37兆800億ペソとなった。一方、貿易に関連する税の徴収額は、前年と比較して14%増の26兆3,100億ペソとなった。ロメロ国税・関税庁長官によると、2020年の目標徴税額は、168兆ペソであり、この内、13兆5,000億ペソは税制改革によるものである。

(13) 対外債務は、GDPの43.2%に到達(15日、当地紙報道)

中央銀行は、2019年10月の対外債務額が1,376億3,300万米ドルに達したと発表した。これは、1,287億100万米ドルであった昨年末と比べて6.94%に相当する89億3,200万米ドルの増加となる。この内、738億1,000万米ドルは公的債務に相当し、638億2,300万米ドルは民間債務に相当する。また、総負債額をGDP比で見ると、2018年10月は38.7%であったが、2019年10月には43.2%となっている。

(13) コロンビアは2020年の最も魅力的な観光地に。

全米ツアーコンダクター協会は、コロンビアを2020年の最も魅力的な観光地の一つに選び、世界的に注目される国のリストに加えた。コロンビアの主な観光地としては、ボゴタ、メデジン、カルタヘナ、サンアンドレス島、プロビデンスシア島、サンタ・マルタが挙げられている。

(14) コロンビア国内の口蹄疫ワクチンの接種率が97.2%に達する

農業省は、2019年11月5日から12月19日までに実施されたワクチン接種によって、全体の97.2%を占めている2,721万5,538頭の牛に口蹄疫ワクチンが接種されたと発表した。これにより、貿易相手国に、衛生状態を保障し、より多くの市場に牛肉を輸出することができる。

<対外経済関係>

(1) ドウケ大統領は、ダボス会議に参加(20日、当地紙報道)

ドウケ大統領は、20日に開催されたダボス世界経済フォーラムに参加した。2020年はフォーラムが50周年を迎える節目の年であり、気候変動が環境にもたらすリスクが主なテーマとして設定された。また、世界経済の不確実性、多国間主義の未来、世界における地政学的秩序の課題についても議論される。

(2) 米国は、中国によるコロンビアへの投資に不満(25日、当地紙報道)

数ヶ月来、中国系企業は、ボゴタメトロ第1路線、軽軌道線、金鉱山の開発などコロンビアにとって重要なプロジェクトに投資を行ってきた。この期間の投資額は、それまでの過去15年間の投資額よりも多くなっており、コロンビアへの対外直接投資額の増加に寄与している。中国は、コロンビアへの政治的影響力を高めるために、米国と競争しているわけではないとしているが、米国政府内には不満があると見られる。ドゥケ大統領は、中国の投資増加は、地政学的な争いではないとしている。国際的なアナリストによれば、コロンビアは国際関係の多様化を図っていると評している。

<経済指標>

(1) 経済活動全般

(ア) 実質小売売上高指数(DANE発表)

11月の実質小売売上高指数は前年同月比4.4%であった。

(イ) 消費者信頼感指数(Fedesarrollo発表)

11月の消費者信頼感指数(ICC)は、▲14.4%と前月(▲9.8%)を4.6ポイント下回り、前年同月▲19.6%を5.2ポイント上回った。

(2) 産業動向

(ア) 石油生産量(鉱山・エネルギー省発表)

12月の石油生産量は日量88.2万バレルであり、前年同月比▲0.81%となった。

(イ) コーヒー

(i) 生産(コーヒー生産者連盟(FNC)発表)

FNC加盟コーヒー生産者による12月のコーヒー生産量は168万袋(1袋=60kg)となり、前年同月比30.9%となった。

(ii) 価格(国際コーヒー機関発表)

12月のコロンビア産マイルド・アラビック・コーヒーの価格は月平均1ポンド=1.60ドル(前月は同1.44ドル、前年同月は1.30ドル)であった。

(ウ) エネルギー需要

12月のコロンビアのエネルギー需要は6,214GWh、前年同月比5.82%であった。

(3) 物価・雇用(DANE発表)

(ア) 物価

12月の消費者物価上昇率は0.26%、生産者物価上昇率は6.09%であった。

(イ) 雇用

12月の全国平均失業率は9.5%と、前年同月の9.7%より0.2ポイント改善した。また、主要13都市の平均失業率は10.5%と、前年同月の10.7%より0.2ポイント改善した。

(4) 貿易収支(DANE発表)

11月の貿易収支(FOB)は、16.6億ドルの赤字であった。輸出(FOB)全体では、前年同月比▲13.6%の28.87億ドル、輸入(CIF)全体では、前年同月比6.3%の47.57億ドルとなった。

2 主な経済指標

| | | | | |
|---------------------------------------|----------|----------|----------|----------|
| (1) 経済活動指数 (単位：%，出所：DANE) | 2018/11 | 2019/9 | 2019/10 | 2019/11 |
| (ア) 実質工業生産指数 (前年同月比) | 4.7 | 0.3 | 2.1 | -1.5 |
| (イ) 実質工業売上高指数 (同) | 4.8 | 1.3 | 2.7 | -1.1 |
| (ウ) 実質小売売上高指数 (同) | 10.8 | 6.9 | 7.4 | 4.4 |
| (エ) 新規建設着工承認面積 (単位：万㎡) | 209.2 | 166.7 | 163.7 | 187.4 |
| (2) 失業率 (単位：%，出所：DANE) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| (ア) 全国平均 | 9.7 | 9.8 | 9.3 | 9.5 |
| (イ) 主要13都市平均 | 10.7 | 10.4 | 10.4 | 10.5 |
| (3) 消費者物価上昇率 (単位：%，出所：DANE) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| (ア) 前月比 | 0.30 | 0.16 | 0.10 | 0.26 |
| (イ) 前年同月比 | 3.18 | 3.86 | 3.84 | 3.8 |
| (4) 政策金利 (単位：%，出所：中央銀行) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| | 4.25 | 4.25 | 4.25 | 4.25 |
| (5) 為替 (対ドル為替レート) (単位：ペソ，出所：中央銀行) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| (ア) 月初 | 3,235.27 | 3,477.45 | 3,383.29 | 3,522.48 |
| (イ) 月末 | 3,249.75 | 3,389.94 | 3,522.48 | 3,277.14 |
| (ウ) 最高値 | 3,289.69 | 3,497.34 | 3,522.48 | 3,522.48 |
| (エ) 最安値 | 3,153.29 | 3,380.90 | 3,318.47 | 3,277.14 |
| (6) 株式指数COLCAP (単位：ポイント，出所：COLCAP) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| (ア) 月初 | 1,405.61 | 1,582.42 | 1,645.88 | 1,598.33 |
| (イ) 月末 | 1,325.93 | 1,633.15 | 1,611.92 | 1,662.42 |
| (ウ) 最高値 | 1,408.41 | 1,633.92 | 1,665.69 | 1,666.62 |
| (エ) 最安値 | 1,301.60 | 1,574.83 | 1,587.33 | 1,589.90 |
| (7) 貿易 (単位：百万ドル，出所：DANE) | 18/11 | 19/9 | 19/10 | 19/11 |
| (ア) 輸出額 (FOB) | 3,400.90 | 3,079.8 | 3,319.50 | 2,887.4 |
| (イ) 同 年内累計 | 41,831.4 | 29,902.1 | 33,210.0 | 36,103.8 |
| (ウ) 輸入額 (CIF) | 4,182.90 | 4,200.4 | 4,333.30 | 4,757.3 |
| (エ) 同 年内累計 | 51,230.6 | 39,533.6 | 43,867.0 | 48,624.3 |
| (8) 労働者送金 (単位：百万ドル，出所：中央銀行) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| | 607.5 | 596.9 | 543.7 | 634.9 |
| (9) ガソリン価格 (単位：ペソ，出所：鉱山・エネルギー省) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| 注：ボゴタのレギュラーガソリン1ガロン当たり | N/A | 9,734.00 | 9,705.00 | 9,704.00 |
| (10) 自動車販売台数 (単位：台，出所：ECONOMETRIA) | 18/12 | 19/10 | 19/11 | 19/12 |
| (ア) 単月 | 33,112 | 23,890 | 23,989 | 30,713 |
| (イ) 年内累計 | 256,662 | 208,982 | 232,971 | 263,684 |